

中国・韓国における村上春樹文学の翻訳版本の変遷

— 『風の歌を聴け』を中心に —

権 慧

一. はじめに

東アジアにおける村上春樹文学の受容については、藤井省三・東京大学教授の先駆的な研究がある。藤井は台湾、香港、上海、北京四都市における村上文学の流行を論じた後、村上チルドレンの登場や、経済発展や政治状況による村上文学の読者層の形成について論じ、東アジア各国における村上受容の状況を明らかにした¹。また、村上文学の中国語翻訳における土着化と外国化問題にも言及しており、中国語訳諸版の比較を行い、各版本の特徴及びその背後にある現代文化史的意味を指摘した²。外国の読者にとっては訳本が村上世界に入る必須の経路であるため、翻訳に関する議論は現在も絶えず起きており、それは単なる直訳か意識かという問題にとどまらず、村上文学の感性や日本文化を如何に伝達するか、そして外国文化に直面する自国文化を如何に保全するか、あるいは変革するべきかという文化論にまで広がっている。筆者は拙論「中韓両国における村上春樹文学翻訳版本の比較研究」³において『色彩を持たない多崎つくると、彼の巡礼の年』の中韓両国語翻訳を比較し、藤井省三の四大法則、つまり「時計周りの法則」、「経済成長踊り場の法則」、「ポスト民主化運動の法則」、「森高羊低の法則」に加え、第五の法則として「異化翻訳の法則」を提起した。この研究により、一九八九年から二〇一三年までの村上文学翻訳の歴史において、中韓両国とも直訳的な異化傾向を強めていることがわかった。

一九七九年に村上春樹は『風の歌を聴け』（以下『風』と略す）により、第二十二回群像新人賞を受賞し、小説家として文壇デビューを果たした。物語は二十九歳の「僕」の回想から構成され、一九七〇年八月八日に始まり同年八月二十六日に終わり、神戸を背景に「僕」、「鼠」および「小指のない女の子」の夏休みのできごとを描いた。「古きよき時代を懐かしむよ

うなレコードの歌詞や、ディスク・ジョッキーなどが盛り込まれているが、あらゆるものは通り過ぎ、誰もそれをとらえることはできないといった、「時代の流れ」を意識した喪失感あふれる作品である⁴と評され、発表当初から「鼠」は作者の分身であるとも言われている⁵。「鼠」は『1973年のピンボール』と『羊をめぐる冒険』にも登場しており、村上春樹初期文学で重要な役割を果たしている。本論文では『風』の中国語訳本と韓国語訳本を取り上げ、特に「鼠」の登場部分に注目し、一九九〇年代初頭から近年までの翻訳手法の変遷を明らかにしたい。

二. 中韓両国における『風の歌を聴け』の出版事情

1. 中国における『風の歌を聴け』—『好風長吟』から『且聴風吟』への展開

『風』が最初に中国に翻訳されたのは一九九二年のことであり、漓江出版社より『好風長吟』というタイトルで中短編集を刊行した。同訳本には『風』を含め、「蚩」や「パン屋再襲撃」、「TV ピープル」など合計二点の村上の短編小説が収録されている。『風』、「蚩」及び「パン屋再襲撃」は林少華により、その他は葉宗敏⁶、張傑梅等一二人により翻訳された。本文の前には林による「訳文前言（筆者訳：訳文前書き）」がつけられた。林は一九八九年『森』により引き起こされた中国の村上ブームについて紹介し、同訳本の出版経緯を述べた。「我が国の青年読者の中にはさらに“村上春樹ファン”が現れ、彼らは何度も出版社と翻訳者本人に手紙を書き、早く村上の他の作品を読みたいという切実な気持ちを表した——日本純文学作品にとって、このように受けがいい状況は我が国でおそらく初めてであろう。こんな状況のもとで、漓江出版社は村上春樹の代表的中短編集を出版することにした。」⁷『好風長吟』は一九九二年八月に出版され、初版一万部印刷された。その後一九九九年、北方文芸出版社は「村上春樹精品集」を刊行し、高翔翰⁸訳の同作及び『カンガルー日和』、『ねじまき鳥クロニクル』を収録している。当時は著作権制度が成立していなかったため、二つの『風』の中国語訳本は著作権を取得していなかった。中国WTO加盟後の二〇〇一年、上海訳文出版社が村上春樹作品の簡体字著作権を取得して、「村上春樹文集」シリーズ、エッセイシリーズなどを刊行し、

二〇〇九年『走ることについて語る時、僕の語ること』が新経典文芸出版社により出版されるまでは独占的に林少華訳で村上の中国語簡体字版を刊行した。『風』は「村上春樹文集」の一作として出版され、タイトルを漓江版と対照的に『且聴風吟』と改題した。さらに林による序文「村上春樹的小説世界及其芸術魅力(筆者訳:村上春樹の小説世界およびその芸術魅力)」が付けられたが、「村上春樹文集」の「総序」であり、文集に収録された『森』以外のすべての作品に付された。林は同序文において『風』から『神の子供はみな踊る』(以下『神』と略す)までの村上春樹長編小説と『神』のあらすじ、村上の創作経緯や日本での評論などを紹介した。さらに、村上文学がブームを起こした理由を四点にまとめた。すなわち、「第一、彼(筆者注:村上春樹)の作品の現実性、非現実性の中の現実性まで含む。我々中国の読者からみれば、村上作品には難解なところがあるかもしれない、しかし日本読者、特に日本青年読者にとっては、彼らの身の回りの出来事やよく知っていることなので、村上が自分のかわりに言いたいこと、書きたいことを述べた。ひいては適切な言葉で人生の各段階の朦朧とした苦悩を述べ、人生の「装置」を再現し、現実性に富んでいる。〔中略〕第二、村上作品の魅力は作者の独特の言語、言語スタイルあるいは文体の使い方である。〔中略〕第三、作者が敏感、正確かつ含蓄に時代の雰囲気を与え、二〇世紀八〇年代の日本青年特に都市の独身青年の傾斜失重した精神世界を再現し、特定の社会環境の生態の真実と「感性」の真実を表した。〔中略〕第四、(読者の)無意識の中に目覚めていない憧れ、田園意識の永久の青春の夢を起こした。」⁹。同訳本の発行部数に関しては不明であるが、二〇〇一年八月に第一版を刊行して以来、二〇〇三年一月までわずか二年で五回増刷され、合計六万一千三百部印刷された。二〇〇七年に訳文出版社は新たに「村上春樹作品集」を刊行し、『風』は作品集の一作として斬新な表紙で出版された。更に林による序文「人生旅途中的风吟(筆者訳:人生の旅のなかの風が歌う)」がつけられた。序文では村上の処女作『風』の創作過程や群像新人賞受賞の際の吉行淳之介と丸谷才一の批評文を一部紹介し、文学テキストとして『風』のスペシャルなポイントをまとめた。林は「文体または言語スタイルにある:簡潔明快、爽やかで直説、リズム

が短促であって切り替えが速い。〔中略〕『風』のもう一点の新しいポイントまたは特徴は距離感である。〕と述べ、さらに「距離感または疏離感は虚無感、孤独感、ユーモアとともに村上作品の基調を構成した」¹⁰と論じた。同作は二〇〇七年七月初版し、二〇一〇年一月までの二年半で十回増刷され、合計五万九千二百部印刷された。「村上文集」収録の『風』に比べ、発行部数には微差があるが、増刷回数が倍増されることは村上ブームの進展が見えよう。二〇一四年に上海訳文出版社は『村上春樹代表的長編小説十部精装本セット』を刊行し、一四年版の『風』は〇七年版の林の序文をそのまま使う一方、訳本に対して多くの修正を行った。林は同シリーズに収録されている『森』の序文「永遠的青春風景」において、「読者からの質問に答える一方、また知人の助けにより原作と対照しながら誤訳、漏れ訳を見つけ、修正を行った」と述べている¹¹。同『風』訳本は二〇一四年五月に二万部出版され、翌年の二〇一五年一月に第二刷一万部を増刷し、合計三万部印刷した。

2. 韓国における『風の歌を聴け』— 四半世紀における『風の歌を聴け』の変遷

『風』は韓国で紹介された村上の三冊目の作品¹²で、韓国国立中央図書館蔵書情報によると現在まで合計八種の版本¹³があり、その内に四点が単行本、三点が短編集の一作として他の村上の短編小説とともに編集され、一点は「村上春樹全作品一九七九～一九八九」（一九九〇年、講談社）の第一巻を意識したように「若頃の春樹；二篇の自伝的な小説」を副題に『風』と『1973年のピンボール』を組み合わせ出版された。『風』が最初に韓国に出版されたのは『森』によってハルキブームが起きた二年後の一九九一年七月のことであり、ソ・ゲイン¹⁴訳でチョンハ出版社より刊行された。同作はまず「水脈のように流れる喪失と悲哀」を題とする訳者の序文が書かれている。序文には「『風』には二〇世紀後半という激変する意識と価値観に身をおいている主人公<僕>と<鼠>などの登場人物たちの人生の姿と内容を驚くほど堂々と書いている。〔中略〕筆者は作者特有の堂々とした叙述体の文章を読み、翻訳する過程で時折作中人物たちから感じる喪失と悲哀が自分の内部にも水脈のように流れていることが確認できて驚い

た。それで作品の中の主人公の〈僕〉と〈鼠〉、それに左手の指が四本しかない女の子とジェイに対して、より共感できたのかもしれない¹⁵という同作への愛と感動が描かれ、時代の流れに合わせ「喪失」に重点をおいていることが分かる。更に原文の後には蒋正一¹⁶の「摩天楼の無宿者たち — 高度資本主義社会での若さ」と金春美¹⁷の「一九九〇年の作家」の二つの解説が付されている。前者は『風』、『ダンス・ダンス・ダンス』（以下『ダンス』と略す）、『森』の作品における共通点や主人公の関係性を分析し、『風』は村上春樹作品の基本形であると論じた。さらに村上作品から当時の日本の若い世代の生活を観察し、韓国の若者と比較を行い、兵役制度を批判した。後者は戦後日本の社会事情を論じ、村上作品が読者を魅了する原因の一つを「都市的叙述」と分析した。同訳本は『風』の版權を Japan Foreign-Rights Centre より取得したと明記しているが、興味深いことに刊行わずか一ヶ月後にハンヤン出版社より金春美訳の『風』が出版された。さらに一九九三年に一種、一九九五年に二種の翻訳版本が出版されたが、全部単行本ではなく、短編集の一作として刊行されている。一九九五年一二月、韓国でも著作権法が修正され、外国の著作物は韓国が加入した条約により保護されることとなった。一九九五年の TRIPS 協定の発効や、一九九六年のベルヌ条約への加盟等によって、知的財産権保護は強化され、さらに改善されたという。修正後の韓国著作権法では、原著者の同意なしには翻訳・出版できないが、その後も村上作品の翻訳・出版は続いており、二〇〇四年まで合計八種の『風』翻訳版本が市場に流通した。これは村上作品の韓国における人気の高さを示していると言えよう。この八種の翻訳の発行部数は不明であるが、現在合法的な版本は二〇〇四年に文学思想社より出版された尹成元¹⁸訳であり、二〇一二年七月まで二六回増刷されている。尹訳版本は表紙に「自伝的話を盛りいれたハルキの初小説¹⁹」と書かれ、裏表紙には文学評論家南真佑の「恋愛するように読める小説」を題の短評を掲載し「私にとって彼（筆者注：村上春樹）の作品は読書や分析の対象よりかは、やはり魅惑の対象である。彼の小説は強い吸引力と甘美な陶酔感で読者（筆者注：の心）を捉えるのだ。」と村上作品の文学性を高く評した。同訳本は原文の後に村上のエッセイ「自作を語る」台所の

テーブルから生まれた小説」の『風』に関する部分を翻訳し、さらに作品解説として金碩子の「空虚感と欠乏感の中から探す若さの浪漫」、訳者後書きとして「ハルキ出世作の持つ魅力に心酔して」が加えられた。金は『風』の解説を通してハルキ文学の特色を「まずは読者を魅惑する文章力であり、人間の複雑な内面世界を描写しながら短くて読みやすい文章で軽快感を与える。次に、周知のように村上春樹作品ではある特定の人物やものを探す過程が物語を構成する基本的構造であるため、読者の興味を持続させ、小説を読ませていく。第三に、村上春樹はアメリカ作家の影響を受け、以前の日本小説とは異なり日本小説という感覚が稀薄である。都会的センスがあり洗練されており、世界各国の読者から人気を集めている。最後は読者を作品の漂っている空虚感と欠乏感に呼応させる。高度消費社会において物質的・金銭的には豊かであるが何か埋まらない精神の欠乏を村上文学が満たしてくれている」²⁰と四点にまとめている。尹は後書きにおいて「彼（筆者注：村上春樹）の小説になじんでいる都市型小説的要素、すなわち軽快なリズム感、軽いタッチ、事实的描写、倫理とは関係のない感性、孤独が溶け込んでいる空虚感と欠乏感、適当な無関心などが固定観念や伝統、習慣から距離を置かれて描かれ、若い世代の共感を呼び起こしている」²¹と述べている。さらに「どんな意味の間を適用させながら彼（筆者注：村上春樹）の作品を理解すべきか、彼が我々と共有しようとする喪失感がどんなふうに出されているか、などの期待感に心をときめかせながら翻訳作業を進める。翻訳する際、この作品は彼の他の作品とは異なり、簡潔で平易に書かれていることを感じた。ややもすれば重く扱う主体意識を軽いタッチで描いていったのである」²²と翻訳及び同作の文体に触れた。

以上中国簡体字訳と韓国語訳の出版状況及びそれぞれ訳本に付されている序文や解説について紹介した。中韓両国ともに『森』により村上ブームが起きた後、一九九〇年代初頭に『風』を翻訳し出版した。中国では主に林によって翻訳されることに対して、韓国では『風』をめぐって多くの版本及び翻訳者があり、二〇〇〇年以降流通版本がようやく定着したことがわかる。また中韓両国訳本ともに解説で『風』を通して村上文学の特徴や人気の理由をまとめており、村上文学の距離感や虚無感、リズム感を強調

している。次章ではこのような村上文学の特徴がそれぞれの訳本でどのように表現されたかを調査する。

三. 『風の歌を聴け』中韓版本特徴

前述のように筆者は拙論においてアメリカの翻訳理論家ロレンス・ヴェヌティの「帰化 (domestication)」および「異化 (foreignization)」に関する翻訳理論²³に基づき、『色彩』及び『森』の「帰化」から「異化」へ転換することを分析した。本章ではこのような翻訳手法の背景で『風』の訳本がどのように変化したかを下記の版本でまず調査したい。その上に第三章から第六章までの「鼠」登場の部分の精査し、各訳本の特徴をまとめたい。原作：

村上春樹『風の歌を聴け』、『村上春樹全作品 1979～1989 ①』、講談社、一九九〇年五月第一刷、二〇一四年七月第一〇刷

中国語訳：

村上春樹『好风长吟』林少華訳、漓江出版社、一九九二年八月第一版第一刷（「92年林訳」と略す）

村上春樹『且听风吟』林少華訳、上海訳文出版社、二〇〇一年八月第一版、二〇〇三年一月第五刷（「01年林訳」と略す）

村上春樹『且听风吟』林少華訳、上海訳文出版社、二〇〇七年七月第一版、二〇一〇年一月第十刷（「07年林訳」と略す）

村上春樹『且听风吟』林少華訳、上海訳文出版社、二〇一四年五月第一版、一〇月第二刷、（「14年林訳」と略す）

韓国語訳：

村上春樹『바람의 노래를 들어라』ソ・ゲイン訳、チョンハ出版社、一九九一年七月、第一刷（「91年ソ訳」と略す）

村上春樹「바람의 노래를 들어라」キム・ヨンコン訳、短編集『村上春樹傑作選－僕には天使のような彼女』²⁴収録、ジョンミンメディア、一九九八年二月一八日（「98年金訳」と略す）

村上春樹『바람의 노래를 들어라』尹成元訳、文学思想社、二〇〇四年五月第一刷、二〇〇九年改訂版第十二刷、（「04年尹訳」と略す）

1. 林訳の特徴

まず 92 年林訳から 14 年林訳までの変化に注目したい。重版のたびに誤訳修正、意味補充などの作業を行っていることはすでに多く指摘されており、本稿では第三章から第六章まで精査したところ下記の表²⁵のような結果を得ることができた。

林訳版本	修正箇所合計	修正例
92 年林訳	—	—
01 年林訳	10	訳注の導入、无奈→无聊…
07 年林訳	9	寄到信箱里的广告 →直邮广告；醉了两天→宿醉…
14 年林訳	18	咖啡粉碎机 →咖啡豆研磨机；宿醉→醉了两天…

「01 年林訳」は「92 年林訳」のもとに修正を行い、第三章から第六章までアラビア数字を漢数字に変更することを含め、合計十か所の変化がみられる。その中には「ロールシャハ・テスト」を 92 年林訳の「罗沙哈测验」から「罗夏测验」に修正し、さらに注釈を入れたものがあり、鼠の車である「フィアット 600」を「菲亚特 300」から「菲亚特 600」に誤訳修正した点が挙げられる。07 年林訳も 01 年林訳の誤訳を多数修正した。「カウンターに隣り合って腰かけていた (12)」を「隔桌而坐 (筆者訳：テーブルを隔てて座る)」から「并肩而坐 (肩を並んで座る)」に変え、原作のイメージを再現した。また「ダイレクト・メール」や「バーテンダー」を「直邮广告」、「调酒师」に修正した。さらに 14 年林訳は 07 年林訳に多くの修正を入れたが、それも固有名詞に多くみられ、例えば「コーヒー・ミル」を「咖啡粉碎机」から「咖啡豆研磨机」に直し、07 年林訳から外来語に関して正確さを一層求める訳者の工夫が見える。更に、例文⑥のような以前の誤訳の修正もある一方、例文⑦の「二日酔い」を 07 年林訳の「宿醉 (筆者訳：二日酔い)」から「醉了两天 (筆者訳：二日間酔った後)」に変更し、再び誤訳になった箇所もある。

林訳の特徴に関してはすでに多く論じられてきた。その中でもっとも多く指摘されることは四字語や古文の多用であり、林はそれにより村上文体のリズム感を再現しようとする自ら述べている²⁶。しかし、原作の簡潔

なりズムとは逆に韻を踏んだ難解な文章になり、例えば例文①のように「そのとおりだ」を「诚如所言」に訳し、古風を感じることで原作の語り手の青年の現代都市的イメージから乖離してしまう。上述の多くの修正があるにも関わらず、書き換えが尚も大幅占めており、帰化傾向であると筆者は判断する。

2. ソ訳の特徴

ソ訳の特徴はまず書き換えと誤訳が少ないことであり、原作を比較的忠実に再現している。書き換えに関してはまず「例文①のように「そのとおりだった」を「과연 그럴것이다. (筆者訳：やはりそうであるだろう)」と原文の肯定文を推測文に変えるなどがある。誤訳は例文②の「俺たちツイてるよ」を「우리는 한짝이라구 (俺たちは相棒だよ)」と意味を間違えたところなどを含め、合計五か所みられる。訳し漏れは六か所あり、二か所は例文①の「と僕は試しにそう言ってみた」、「と僕は鼠に言った」を省略し、「もっとも」、「海に浮かんだまま」、「何度も」、「島」の文が訳されていないが、原作の雰囲気はある程度再現できたと思ふ。また、ソは漢字やカタカナの固有名詞を翻訳する際、ハングルの後ろに漢字を加えており、例えば「尺」やフロベールの「感情教育」、「サン・ルーフ」、「浮輪」、「沈没」などが挙げられる。特に「浮輪」の場合はそれに当たる韓国語名詞があるにも関わらず、「부륀」と訳したが、「부륀」は韓国国立国語院データベース・標準国語大辞典には載っていない。

筆者は前注拙論にも言及したが、韓国では村上文学受容初期から女性発話主体のため口を丁寧語に変更するなどの帰化が行われていると論じた。ソ訳にも同じ傾向がみられ、「小指のない女」と「三番目に寝た女」の「僕」との対話が全て原作のため口から丁寧語に書き換えられている。同訳本が受容された一九九〇年代初頭韓国社会はまだ保守的で、ため口で男性に話かける女性の存在は許されなかったのであろう。更に「ジェイ」との会話の「僕」部分が丁寧語に翻訳された。現在でも年上の相手に対しては丁寧語で会話するのが一般的であるため、ソはこれらの点を配慮して改編したと思われる。しかし、この帰化翻訳はキャラクターの性格をも改編してしまい、村上文学に生きている一九七〇年代の日本風貌を韓国読者

に伝えるのが難航してしまう。ソはインタビューにおいて「翻訳は第二の創作であるため、母国語の術がもっと重要である」²⁷と「帰化的翻訳」をより重視するように述べたが、同訳本から見る限り、筆者は直訳的異化傾向がより強いと筆者は判断する。

3. 金訳の特徴

金訳とソ訳は重なる部分が多く、付録を参考に挙げるが、波線部分以外は全部同じであり、筆者の調査によれば両訳の同一部分が七十パーセントを超えている。金はソ訳の漢字表記を削除し、難解な漢字訳語をわかりやすいハングルに変え、例えば「浮輪」をソ訳の「부륜」から「부드」に直した点が指摘できる。さらに「ダイレクト・メール」のような外来語に後ろに英語表記を加えた。書き換えの部分について修正が四ヶ所見当たり、ソの誤訳を二か所修正した。例えば例文②の「俺たちツイてるよ」をソの誤訳「우리는 한짝이라구 (筆者訳：俺たちは相棒だよ)」から「우리는 아주 운이 좋았어 (筆者訳：俺たちはとても運が良かった)」と解釈的に翻訳した。しかし、訳漏れの補充は見当たらない。このように金は91年ソ訳を参考にしたことが推測できる。

4. 尹訳の特徴

前述のように現在韓国で流通している版本は04年尹訳である。同訳本はソ訳と金訳に比べ、訳者注がついており、誤訳、漏れ訳は目立たないが、書き換えが全体の四十パーセントを超えている。書き換えの部分は例えば「金持ちなんて・みんな・糞くらえさ」を「부자 놈들은 모두 엇이나 먹어라」のように、韓国読者になじみやすい表現に変え、金持ちに対するうらみを表し、帰化翻訳であると判断できる。固有名詞については分かりやすさを考慮したかのように前述の「ダイレクト・メール」を「광고지 (広告紙)」と訳し、さらに「ジェイズ・バー」は音訳し、ソ訳・金訳では「J」と変換したことに対し「제이 (筆者訳：ジェイ)」と表記した。さらに例文⑥の「山の手の小さなバー」を「야마노테에 있는 조그마한 술집 (筆者訳：ヤマノテにある小さな居酒屋)」と原文の「山の手」を外来語として処理し、欧米文化を連想させる「バー」を東洋的に「居酒屋」と書き換えた。更に、ソ訳は登場女性の会話を全部丁寧語に変更したこととは対照的に、尹訳で

はため口がそのまま残されている。これによって韓国社会が水平的な男女関係に寛容的になっていく時代の流れが感じられる一方、「僕」と「ジェイ」の会話は「僕」の丁寧語で訳されており、垂直的關係においてはまだ嚴格であることがわらう。誤訳、漏れ訳がないことから翻訳の質は九十年代より向上したと判断できるが、書き換えが四十パーセントを超えることは「意識的帰化」傾向を示す。

5. 村上文学の「リズム」の翻訳

第二章では翻訳者を含む、文学評論家などは村上文学の特徴についてその「リズム」を強調し、作品全体のリズムのみならず、文と文の間のリズムにも注意が必要であろう。例文④は驚くほど本を読まない鼠が「僕」になぜ読書するかと質問するシーンであり、僕と「鼠」が「何故...む?」の構造の繰り返し、読者にリズム感を与えている。林訳四種はすべて「干嘛...啊?」の文型でそのリズムを再現しようとし、ソ訳と金訳は同じく「어째서...거지?」を二度繰り返した。一方尹訳ではそのリズムが表現されていない、さらに「僕」と「鼠」の呼吸が合っている点が薄まれてしまった。

四. まとめ

本論では、村上春樹文学受容初期から近年まで『風』の版本が中国と韓国でどのように変遷してきたかを論じた。中韓両国とも八〇年代末頃に村上ブームが起き、その勢いに乗って九〇年代初頭に村上デビュー作である『風』を翻訳・出版した。韓国ではほぼ同時期に『風』の複数の版本が表れ、訳本出版とともに文学評論も多くなされたことに対し、中国では『風』の出版に対して韓国のように積極的宣伝や評論を訳書に付する代わりに、多くの翻訳者を集めて村上の代表的短編を中国の読者に紹介したことがわかる。また九〇年代初頭、両訳本には外来語の翻訳に苦勞していることがわかり、音訳の異化翻訳または自国にあるものに変更する帰化翻訳を取り入れている。中国簡体字版『風』の訳本は全部林により翻訳²⁸され、版を重ねるたびに原作により近づいているものの、書き換えが依然として多数あることから帰化翻訳の傾向が高いと判断する。一方韓国では九〇年代においてソ訳を原本とする金訳が表れたが、両訳本は比較的に原作の時代雰囲気

気やリズムなどを再現するのに力を入れたと思われるが、残念ながら韓国社会の男女関係・上下関係のルール影が訳本に残されている。二〇〇〇年に入って、一つの版本、すなわち尹訳に定着されたが、尹は「読みやすさ」を重視しており、ソ訳と金訳の異化的傾向から帰化傾向を示している。このように中韓両国では翻訳手法がともに帰化傾向を表し、それが両国の『風』に関する読書傾向にどのように影響しているかを今後の課題にしたい。

付録：

例文①：

「でも結局みんな死ぬ」僕は試しにそう言ってみた。

「そりゃそうさ。みんないつかは死ぬ。でもね、それまでに50年は生きなきゃならし、いろんなことを考えながら50年生きるのは、はっきり言って何も考えずに5千年生きるよりずっと疲れる。そうだろう？」

そのとおりだった。(14～15)

92年、林訳：

“不过，到头来都是一死。”我试探着说道。

“那自然。人人早晚得死。可是死之前有50年要活。这呀那呀地边想边活，说白啦，要比什么都不想地活5千年还辛苦地多。是吧？”

诚如所言。

01年、07年林訳：

“不过，到头来都是一死。”我试探着说道。

“那自然。人人早晚得死。可是死之前有五十年要活。这呀那呀地边想边活，说白啦，要比什么都不想地活五千年还辛苦地多。是吧？”

诚如所言。

14年林訳：

“不过，到头来都是一死。”我试探着说道。

“那自然。人人早晚得死。可是死之前有五十年要活。这个那个地边想边活，说白啦，要比什么都不想地活五千年还辛苦地多。是吧？”

诚如所言。

91年ソ訳：

「하지만 결국엔 너나없이 죽고 말지 .」

「그거야 그렇지 . 모두 언젠가는 죽지 . 하지만 그렇게 되기까지 우린 50년쯤은 살아야 될 테지 . 여러 가지 것들을 생각하면서 50년 산다는 것은 , 분명히 말해서 , 5천년을 사는 것보다 훨씬 피곤한 일이지 . 그렇지 ?」

과연 그럴 것이다 . (19 ~ 20)

98年金訳：

“ 하지만 결국엔 모두 죽고 말지 . ”

“ 그거야 그렇지 . 모두 언젠가는 죽지 . 하지만 그렇게 되기까지 우린 50년쯤은 살아야 될 테지 . 여러 가지 것들을 생각하면서 50년을 산다는 것은 , 분명히 말해서 , 5천년을 사는 것보다 훨씬 피곤한 일이야 . 그렇지 ? ”

과연 그래도였다 . (18)

04年尹訳：

“ 하지만 결국엔 모두 죽어 . ”

나는 시험삼아 그렇게 말해보았다 .

“ 그야 물론이지 . 모두들 언젠가는 죽지 . 하지만 말이야 . 그때까지 50년은 더 살아야 되고 , 여러 가지 일을 생각하면서 50년을 사는 건 분명히 말해서 아무것도 생각하지 않고 5천년을 사는 것보다 훨씬 피곤하다고 . 안 그래 ? ”

맞는 말이였다 . (19 ~ 20)

例文②：

「ねえ、俺たちはツイてるよ」5分ばかり後で鼠はそう言った。「見てみなよ。怪我ひとつない。信じられるかい？」(16)

92年林訳：

“喂，咱们可真算好运！”5分钟后鼠开口道，“瞧嘛，浑身完好无损，能信？”

(8)

01年、07年、14年林訳：

“喂，咱们可真算好运！”五分钟后鼠开口道，“瞧嘛，浑身完好无损，能信？”

(11；13；14)

91年ソ訳：

“ 이봐 , 우리는 한짜이라구 . ”

5 분쯤 후에 쥐는 그렇게 말했다.

“보라구, 상처 하나 없잖아. 믿을 수 있겠어?” (21)

98年金訳:

“이봐, 우리는 아주 운이 좋았어.”

5 분쯤 지나고 나서 쥐가 말했다.

“보라구, 상처 하나 없잖아. 믿을 수 있겠어?” (20)

04年尹訳:

“우리는 운이 좋아.”

오 분 정도 후에 쥐가 말했다.

“이것봐, 상처 하나 없다니 믿을수 있겠어?” (21)

例文③:

「100キロだって走れる」と僕は鼠に言った。

「俺もさ」と鼠は言った。(17)

林訳四種:

“能跑一百公里!”我对鼠说。

“我也能”

ソ訳、金訳:

“100km라도 달릴 수 있겠어.”

“나도 그래“

하고 쥐는 말했다. (23;21)

尹訳:

“백 킬로미터 라도 달릴 수 있겠어” 하고 나는 쥐에게 말했다.

“나도 그래” 하고 쥐가 말했다.

例文④:

「何故本なんて読む?」

「何故ビールなんて飲む?」

92年、01年、07年、14年林訳

“干嘛看什么书啊?”

“干嘛喝什么啤酒啊?” (9; 13; 15; 17)

91年ソ訳:

「어째서 책 따월 읽는 거지?」

「어째서 맥주 따월 마시는 거지?」(23 ~ 24)

98年金訳:

“어째서 책 따월 읽는 거지?”

“어째서 맥주 따월 마시는 거지?”(22)

04年尹訳:

“왜 책 같은 걸 읽는 거야?”

“왜 맥주 같은 걸 마시는 건데?”(24)

例文⑤:

僕は鼠のグラスにビールを注いでやったが、彼はまだ体を縮めたまましばらく考え込んでいた。

92年、01年、07年林訳：鼠如此说罢，把啤酒倒进杯子，再次缩起身子陷入沉思。

14年林訳：我把啤酒倒进鼠的杯子。鼠再次缩起身子陷入沉思。

91年ソ訳、98年金訳:

나는 쥐의 잔에 맥주를 부었는데, 그는 그때까지도 몸을 움츠린 채 한동안 생각에 잠겨 있었다. (25; 23)

04年尹訳:

나는 쥐의 잔에 맥주를 따라 주었다. 그는 여전히 몸을 움츠린 채 생각에 잠겨 있었다. (24)

例文⑥:

女は二日と二晩泳ぎつづけてどこかの島にたどりつく。俺は俺で二日酔いのまま飛行機に救助される。それでね、何年か後に二人は山の手の小さなバーで偶然めぐりあうんだな (21)

92年林訳:

女的连续游了两天两夜，终于爬上一个孤岛；我么，醉了两天后给飞机救出。这么着，好多年后两人竟在山脚一家小酒吧里不期而遇。

01年:

女的连续游了两天两夜，终于爬上一个孤岛；我么，醉了两天后给飞机救出。这么着，好多年后两人竟在山脚一家小酒吧里不期而遇。

07 年林訳 :

女的连续游了两天两夜, 终于爬上一个孤岛; 我么, 带着宿醉给飞机救出。这么着, 好多年后两人竟在山脚下一家小酒吧里不期而遇。

14 年林訳 :

女的连续游了两天两夜, 终于爬上一个孤岛; 我么, 醉了两天后给飞机救出。这么着, 好多年后两人竟在山脚下一家小酒吧里不期而遇。

91 年ソ訳 :

여자는 이틀 밤낮을 헤엄쳐 어딘가에 당도하는 거지. 나는 나대로 이틀을 취한 채 비행기에 구조 되는 거고. 그런데 말야, 몇 년 후에 두 사람은 고대高臺의 작은 바에서 우연히 만나는 거야.

98 年金訳 :

여자는 이틀 밤낮을 헤엄쳐 어딘가에 도착하지. 나는 나대로 이틀을 취한 채 비행기에 구조되는 거고. 그런데 말야, 몇 년 후에 두 사람은 어떤 작은 바에서 우연히 만나는 거야.

04 年尹訳 :

여자는 이틀 낮 이틀 밤을 꼬박 헤엄쳐서 어딘가의 섬에 도착하지. 나는 나대로 술에 취한 채 비행기에 의해 구조되고 말이야. 그리고 나서 몇 년인가 뒤에 두 사람은 야마노테에 있는 조그마한 술집에서 우연히 만나게 되는 거야.

Endnotes

- ¹ 藤井省三 『村上春樹のなかの中国』、朝日新聞社、2007 年。
- ² 藤井省三 「村上春樹の中国語訳 — 日本文化の土着化と中国本土化の変革」、『日語学習と研究』、2009 年 1 月、総 140 号。
- ³ 權慧 「中韓兩國における村上春樹文学翻訳版本の比較研究 — 『色彩を持たない多崎つくると、彼の巡礼の年』を中心に」、東京大学中国語中国文学研究室紀要、第 18 号、2015 年 12 月。

⁴ 宮脇俊文『村上春樹を読む — 全小説と作品キーワード』、文庫ぎんが堂、2010年、203頁。

⁵ 吉行淳之介「一つの収穫」、『群像』、1979年第6号、119頁。

⁶ 葉宗敏、1982年山東大学卒業、訳書に松本杏花の「俳句選集」があり、現在中国日本文学研究会理事を務める。

⁷ 村上春樹『好风长吟』、林少華訳、漓江出版社、1992年8月第1版第1刷、1頁。原文：在我国青年读者中甚至出现了“村上春树迷”，他们再三写信给出版社和译者本人，表达自己渴望快些见到村上其他作品的迫切心情——就日本纯文学作品来说，如此受欢迎的情形再我国恐怕多年来还是第一次。在这种情况下，漓江出版社决定出版一部村上春树有代表性的中短篇选集。筆者により中国語、韓国語文章を日本語に翻訳したもので、以下「筆者訳」と略す。

⁸ 高翔翰の詳細は不明。

⁹ 村上春樹《且听风吟》、林少華訳、訳文出版社、2001年8月第1版、2003年1月第5刷、15頁～25頁。原文：在于他作品的现实性，包括非现实的现实性。在我们中国读者看来，村上作品可能不无费解之处，但对于日本读者尤其日本青年读者来说，则很多事他们身边的事和他们所熟悉的事，而觉得村上说出了自己想说的东西，甚至认为村上在小说中以恰如其分的语言道出了其人生每一阶段朦胧的苦恼，是再现自己人生的“装置”，很有现实性。（中略）第二，村上作品的魅力还在于作者匠心独运的语言、语言风格或者说文体。（中略）第三，作者敏感准确而又含蓄地传递出了时代氛围，扫描除了二十世纪八十年代日本青年尤其是城市单身青年倾斜失重的精神世界，凸现出了特定社会环境中生态的真实和“感性”的真实。（中略）因为它唤醒了他们深层意识中那部分沉睡未醒的憧憬，那便是男儿糅合着田

園情結的永恒的青春之梦。

¹⁰ 村上春樹《且听风吟》，林少華訳、訳文出版社、2007年7月第1版、2010年1月第10刷、22頁～25頁、6頁～13頁。

¹¹ 村上春樹《挪威的森林》，林少華訳、訳文出版社、2014年5月第1版、10月第2次刷、22頁～25頁。

¹² 韓国での村上春樹作品出版経緯は前注の拙論に詳しい。

¹³ 『風の歌を聴け』ソ・ゲイン訳、チョンハ出版社、1991年7月；『風の歌を聴け』金春美訳、ハンヤン出版社1991年8月；「風の歌を聴け」『憂鬱な午後の華麗な予感』シン・ハヨン訳、ヘクアム出版社、1993年；「風の歌を聴け」『その時、彼女は僕を望んでいたか』キム・ヨンゴン訳 ジョンミンメディア、1995年；「風の歌を聴け」『風の歌を聴け・1973年のピンボール』尹成元 訳 文学思想社、1996年；『風の歌を聴け』キム・ナンジュウ訳、ヨルリムウォン、出版社、1996年；「風の歌を聴け」『僕には天使のような彼女—村上ハルキ傑作選』金英坤訳、ジョンミンメディア、1998年；『風の歌を聴け』尹成元訳、文学思想社、2004年。

¹⁴ ソ・ゲイン (서계인、1961年～)、明知大学国文科（筆者注：韓国文学科）を出て、京畿大学大学院国文学科（筆者注：韓国文学科）を卒業した。本名はソ・ヒョン (서현) である。村上春樹の作品の翻訳は『風』一点しかない。一九九四年一〇月三〇日の中央日報には「<私はマニア> SF小説翻訳家ソ・ゲイン氏」という記事が書かれており、同記事によるとソは英語と日本語が堪能であり、一九九一年より専業翻訳者として働きはじめたといい、訳書にはSF小説が半分以上あるという。(http://mnews.join.com/article/2962196#home：2017年6月1日閲覧)

¹⁵ 村上春樹『風の歌を聴け』ソ・ゲイン訳、チョンハ出版社、1991年7

月、ii頁。(原文：바람의 노래를 들어라에는 20세기 후반이라는 격변하는 의식과 가치관 속에 처해진 주인공 <나>와 <취>를 비롯한 등장인물들의 삶의 모습과 내용이 놀랍도록 담담하게 그려져 있다. 필자는 작가 특유의 그 담담한 서술체의 문장을 읽고 읊기는 과정에서 문득문득 작중 인물들에게서 느껴지는 상실과 비애가 스스로의 내부에도 수맥처럼 흐르고 있음을 확인 하고는 놀라워했다. 그래서 작품 속의 주인공인 <나>와 <취> 그리고 왼쪽 손가락이 네 개뿐인 여자와 J에 대해 보다 더한 애정으로 공감하게끔 되었는데 모르겠다.)

¹⁶ 蔣正一 (장정일, 1962年~), 韓国の詩人、小説家。一九八四年雑誌『言語の世界』に詩作を発表し、文壇デビュー。代表作には『アダムが目を覚ますとき』(1990)、『私に嘘をついてみる』(1996)などがある。『私に嘘をついてみる』は大胆な性描写で出版禁止となり、蔣は拘束され当時大きな話題となった。

¹⁷ 金春美 (김춘미, 1943年~) 高麗大学日本文学科教授、『21世紀日本文学研究—近代文学と翻訳』など日本文学に関する著書多数。訳書に村上春樹『海辺のカフカ』、太宰治『人間失格』などがある。

¹⁸ 尹成元 (윤성원)、梨花女子大学教育学科を卒業し、韓国外国語大学大学院日本語教育専攻で修士号を取得。訳書には『ねじまき鳥クロニクル』、『1973年のピンボール』、『遠い太鼓』などがある。

¹⁹ 原文：자전적 이야기를 담은 하루키의 첫 소설.

²⁰ 村上春樹『風の歌を聴け』、尹成元訳、文学思想社、初版1刷、改正版12刷、2009年2月、162頁~163頁、

原文：첫째, 스토리의 전개보다는 독자를 매혹시키는 문장력이다. 인간의 복잡한 내면 세계를 묘사하면서도 짧고 읽기 쉬운 문장으로 경쾌하다. 둘째, 이미 알려져 있는 것처럼 무라카미 하루키의 작품 속에서는 어느 특정한 사

람이나 물건을 찾아 헤매는 과정이 이야기를 구성하는 기본 구조로 되어 있기 때문에, 독자의 흥미를 지속시켜 소설을 읽어갈 수 있게 한다. 셋째, 무라카미 하루키는 미국 작가의 영향을 받아 종래의 일본 소설과는 달리 일본 소설이라고 하는 감각이 희박하다. 도회적인 센스가 있고 세련되어 세계 여러 나라의 독자들에게 인기를 얻고 있는 이유가 된다. 넷째, 독자로 하여금 작품속에 감도는 공허감과 결핍감에 호응하게 한다. 고도의 소비 사회에 있어서 물질적·금전적으로는 풍요하지만 뭔가 메워지지 않는 정신의 결핍을 무라카미 문학이 채워주고 있는 것이다.

²¹ 同注 20、165 頁、原文：그의 소설 속에 녹아 있는 도시형 소설적 요소, 즉 경쾌한 리듬감, 가벼운 터치, 사실적 묘사, 윤리와 무관한 감정, 고독이 배어 있는 공허감과 결핍감, 적당한 무관심 등이 고정관념이나 전통, 습관으로부터 거리를 두고 그려져 있어, 젊은 세대에게 공감을 불러일으키고 있다.

²² 同注 20、167 頁、原文：어떤 의미의 틀을 적용시키며 그의 작품을 이해해야 할까, 그가 우리와 공유하려는 상실감은 어떤 식으로 표출되고 있을까, 하는 기대감에 설레며 번역 작업에 임한다. 번역을 하는 동안 이 작품은 그의 다른 작품들과는 달리 간결하고 평이하게 써졌다는 것을 느낄 수 있었다. 자칫하면 무겁게 다루어질 주제 의식을 가벼운 터치로 그려나간 것이다.

²³ A domesticating method, an ethnocentric reduction of the foreign text to target-language cultural values, bringing the author back home, and a foreignizing method, an ethnodeviant pressure on those values to register the linguistic and cultural difference of the foreign text, sending the reader abroad. (Venuti 1995:20)

²⁴ 同傑作選は『風』以外、「蛍」や「眠り」など計七篇の短篇小説で構成されている。しかし、版權取得表記は明記されておらずに、最後の「ハートフィールド、再び...」部分が翻訳されていない。

²⁵ 修正箇所合計は前版と比較する数字である。例えば、01 年林訳の場

合 92 年林訳に比べ、修正箇所が合計六か所ある。修正例については紙幅の関係で代表的な例のみ取り上げる。

²⁶ 林少華、「文体的翻訳和翻訳的文体」、日語学習と研究、2009 年第 1 期、総 140 号、119 頁

²⁷ 同注 15、原文：번역은 제 2 의 창작이기 때문에 우리말 숨씨가 더 중요하다.

²⁸ 中国簡体字版『風』の訳本には 1998 年北方文芸出版社・高翔翰訳もあるが、版元など不明であるため、本論では略す。